

アンドロメダ銀河は、銀河系から最も近い「渦巻き銀河」です。近いといっても距離は約 250 万光年。実距離では「9.5 兆×250 万 km」という途方もない遠さです。しかしアンドロメダ銀河は全体等級が約 4.7 等で、地球から肉眼で見えます。「地球から肉眼で見える最も遠い物体」とされています。これほどの距離にあるのに肉眼で見えるのは、約 1 兆個と考えられている恒星の多さです。それらの光が 250 万年間、宇宙空間を直進して（正確

にはほぼ直進して）地球に届いているのです。

このアンドロメダ銀河も、新しい天体写真儀「Seestar」で驚くほど鮮明に撮影できます。私は北軽井沢小学校裏のレタス畑の農道に車を停め、路上に機器をポンと置き、あとは温かい車の中で撮影しました。それでわずか数分でこの写真が得られるのです。

銀河系に住んでいる我々人類は、銀河系を外から見ることはできません。銀河系の姿は、銀河系内側からの観測に基づく「想像図」でしかないのです。同じように、アンドロメダ銀河の中の知的生命体も、アンドロメダ銀河の本当の姿は知りません。互いに撮った写真を交換すれば良いのですが、たとえ強力な電波で送信したとしても、互いにそれを見合えるのは、250 万年後ということになります。

2024 年 2 月上旬
北軽井沢

